

2016年9月13日

在リオデジャネイロ日本国総領事館

リオ州の安全情報(2016年39号)

リオ市内で麻薬密売組織による抗争(銃撃戦)が発生

11日(深夜)、リオ市内のファベラ(貧民街)において、麻薬密売組織同士の抗争に起因する銃撃戦が発生し、組織構成員1名が死亡したほか、国際空港と南部地区とを結ぶ幹線道路上にあるヘボウサス・トンネル近くで、流れ弾により8名が負傷する事件が発生しています。

1 発生状況

- (1) 9月10日(土)から11日(日)の深夜にかけて、拳銃、小銃等で武装したサン・カルロス・スラム街(Morro de Sao Carlos)のマフィアを多数乗せたトラック2台がエスタシオ(Estacio)地区から出発し、トゥラノ(Turano)・ファベラ(Rio Comprido地区内のスラム街)侵攻作戦を開始した(作戦の目的は敵対関係にある犯罪グループとの縄張り争い)。
- (2) トウラノ地区において、到着したBOPE(州軍警察特殊部隊)、機動隊と犯罪者と間で、長時間にわたって、激しい銃撃戦が繰り広げられた。
- (3) 少なくとも10人の被疑者が、パウロ・デ・フロンティン(Paulo de Frontin)通り(国際空港と南部地区を結ぶ幹線道路)方面へ逃走し、同通りは封鎖された。
- (4) その際、ヘボウサス(Reboucas)トンネル方面へ車で向かっていた男女が、逃走しようとしていた犯人に捕まり、車を渡す事を拒んだところ、銃で撃たれた(男女は病院で緊急手術を受け、リオ市保険局によれば命に別状はない由)。
- (5) 男女を撃った容疑者の一人、ルイス・パウロ・シルバ・ド・ナシメントは、パウロ・デ・フロンティン通り付近で警察との銃撃により死亡した。
- (6) 今回の銃撃戦により、上記被疑者1名が死亡したほか、8名が流れ弾等で怪我をする結果となった。

2 当館から

今回、一般人(男女)が銃撃を受けたヘボウサス・トンネルは、ガレオン国際空港から南部地区(多数の在留邦人が居住)に移動する際に通常利用するルート上にあります。当地当局によれば、今回の麻薬組織の抗争は継続する可能性があり、特に、深夜時間帯における、同幹線道路の移動は可能な限り避けるようにしてください。

3 留意事項

- (1) 常に周囲に気を配り、危険を感じたら安全を確保する退避行動を取りましょう。
- (2) 銃声を聞いた場合は可能な限り低い姿勢を取り、不用意に動かないようにしましょう。
- (3) 万が一強盗に遭ってしまった場合は、決して抵抗せず、素直に相手の要求に応じて下さい。